

為替週間展望 = ドル円は高値圏でのみみ合いが継続か

[6月8日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月1日～6月5日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	159.25	160.09(3)	159.24(1)	159.94	+0.67
ユーロ・ドル	1.1667	1.1671(1)	1.1595(3)	1.1624	-0.0035

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	66,588.12	+258.62	日本10年債利回り	2.677	+0.010
ダウ平均株価	51,561.93	+529.47	米10年債利回り	4.473	+0.037

<来週の主要経済統計等>

- 8日 日本第1四半期GDP 2次速報、日本4月経常収支
独4月製造業新規受注
- 9日 中国5月貿易収支
独4月貿易収支、独4月鉱工業生産指数
カナダ4月貿易収支
米4月貿易収支
米5月中古住宅販売件数
- 10日 中国5月消費者物価指数、中国5月生産者物価指数
米5月消費者物価指数
カナダ銀行(BOC)政策金利
- 11日 欧州中央銀行(ECB)政策金利
ラガルド総裁記者会見
米5月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
- 12日 日本4月鉱工業生産指数
英4月鉱工業生産指数、英4月製造業生産指数、英4月貿易収支
独5月消費者物価指数確報値
米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】米国とイランの交渉の長期化は原油高やドル高につながりやすい。ドル円は159円台でやや足踏み状態となっているが、これは日本の政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感が上値を抑えていることが背景にある。こうした中、ドル円は底堅さを維持しつつも、高値圏での神経質な展開が継続するとした。

【ドル円は160円近辺での攻防が続く】

6月1日の週のドル円は159円台前半でスタートすると、その後はドルの堅調な流れを背景に160円近辺まで上値を伸ばす展開となった。

米国の経済指標は良好なものも多く、利下げ期待が後退して、逆に利上げ観測が徐々に高まっている。こうした点がドル買いにつながっている。1日に発表された5月のISM製造業景況指数は54.0となり、市場予想の53.2や前回の52.7を上回った。2日発表の米4月雇用動態調査(JOLTS)求人件数は761.8万人となり、市場予想の686.6万人や前回の688.7万人(改定値)を上回った。

3日発表の5月の米ADP雇用者数は前月比12.2万人となり、市場予想の12.0万人や前回の10.5万人(改定値)を上回った。また、同日発表の5月の米ISM非製造業景況指数は54.5となり、市場予想の53.8や前回の53.6を上回った。

米国とイランの戦闘終結へ向けた協議は、合意に向けて双方の主張にまだ隔たりがあるとみられる。トランプ米大統領が「協議は継続している」と主張しているものの、具体的な進展はあまり見られていない。こうした中東情勢をめぐる不透明感が「有事のドル買い」につながり、ドルの堅調さを支えている。

こうした中、財務省が5月末に過去最大規模（約11.7兆円）の為替介入実績を公表したことで、160円付近では為替介入が入るとの警戒感がドル円の上値を抑えている。

3日、植田日銀総裁が「適切な金融政策を通じて、物価の安定の実現に努める」「物価上振れリスク高まれば、利上げの是非を議論」などと述べた。こうした発言を受けて、ドル円は159.37付近まで下落したものの、その後は159円台後半まで戻りを見せている。6月15～16日の日銀金融政策決定会合での利上げの確率は90%前後に高まっている。

また、3日（日本時間4日早朝）、ダラス連銀のローガン総裁は、インフレが2%目標に戻るまで時間がかかり過ぎており、2%に低下させるためには年後半に利上げが必要になる可能性があるとの認識を示した。FRB高官によるこうしたタカ派的な発言はドルの下支え要因となりやすい。

【中東情勢や米物価指標に注目】

6月8日の週に予定される日米の経済指標やイベントには、8日の日本第1四半期GDP 2次速報や日本4月経常収支、9日の米4月貿易収支や米5月中古住宅販売件数、10日の米5月消費者物価指数、11日の米5月生産者物価指数や米新規失業保険申請件数、12日の日本4月鉱工業生産指数や米6月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

6月8日の週は米国とイランの戦闘終結へ向けた協議の進展や米経済指標の動向が注目される。米経済指標では、特に10日の米5月消費者物価指数と11日の米5月生産者物価指数の2つが注目される。

米消費者物価指数の前回（4月）実績は、前月比+0.6%、前年比+3.8%、コアは前月比+0.4%、前年比+2.8%とおおむね市場予想を上回った。さらに米生産者物価指数の前回（4月）実績も、総合は前月比+1.4%、前年比+6.0%、コアが前月比+1.0%、前年比+5.2%と市場予想や前回値を大きく上回った。原油価格の高止まりによるインフレ圧力の高まりから、利下げ観測が後退するとともに利上げ観測の台頭につながった。

米5月消費者物価指数の事前予想は、前月比が総合で+0.5%（前回+0.6%）、コアで+0.3%（前回+0.4%）といずれも伸びが鈍化する見通しである一方、前年比は総合が+4.2%（前回+3.8%）、コアが+2.9%（前回+2.8%）といずれも伸びが加速する見通しとなっている。

インフレ圧力は前回と比べて落ち着きを見せることが見込まれるものの、原油価格の高止まりを背景にインフレ警戒感は根強い。原油高を考慮すると、インフレ圧力が一気に低下するような状況は見込めない。これはドルの底堅さにつながるとみられる。一方で、政府・日銀によるドル売り円買い介入への警戒感がドル円の上値を抑える要因として機能しそうだ。こうした中、ドル円は高値圏でもみ合いが続くとみられる。目先の予想レンジは156.00～161.50円。

【ユーロドルは軟調な推移が継続か】

11日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、0.25%の利上げが見込まれている。今月に加えて、年内にあと1～2回の追加利上げがあるとの見方が広がっている。ラガルド総裁が記者会見で今後のユーロ圏の景気や物価などに関して、どのような見解を示すかが注目される。

ユーロドルは利上げ観測が高まっているものの、中東情勢の不透明感に伴う「有事のドル買い」の影響で、上値の重い展開となっており、戻したところでは売りに押されて

いる。テクニカル的には21日移動平均線にも上値を抑えられており、軟調な推移が続くとみられる。目先の予想レンジは1.1500～1.1700ドル。

英消費者物価指数は3月（4月22日発表）が前年比+3.3%、4月（5月20日発表）が前年比+2.8%と高止まりを続けており、英中銀（BOE）による年内1～2回の利上げが見込まれている。一方で、ドルの堅調な地合いに上値を抑えられてポンドドルは1.33～1.34台でのみみ合いが続いている。ドルとポンドの強弱感の綱引きが続く中、当面は一進一退の動きが続くとみられる。目先の予想レンジは1.3200～1.3600ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、8日の独4月製造業新規受注、9日の中国5月貿易収支や独4月貿易収支、独4月鉱工業生産指数、10日の中国5月消費者物価指数や中国5月生産者物価指数、カナダ銀行（BOC）政策金利発表、11日の欧州中央銀行（ECB）政策金利発表やラガルド総裁の記者会見、12日の英4月鉱工業生産指数や英4月製造業生産指数、英4月貿易収支、独5月消費者物価指数確報値などが予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。